

自分らしく生きるために

思いを伝える ~アドバンス・ケア・プランニング ACP のすすめ~

人は人生の様々な場面で、色々な選択をして生きています。

進路、就職、結婚 しかし治療・療養 あるいは人生の終え方についてはどうでしょうか？

最近ではエンディングノート、終活、尊厳死などの言葉をよく耳にします。

あなたらしい人生のゴールを目指して準備をしてみませんか？

「豊かな人生を生き抜くために」

申込不要・無料

平成 27 年 3 月 14 日(土) 14:00~16:30

東広島市中央生涯学習センター（旧中央公民館）大ホール
(東広島市西条栄町7-48) 手話通訳あり

第1部 対談

「ACP ってなあに？」

本家 好文（広島県緩和ケア支援センター長）

有田 健一（広島赤十字・原爆病院呼吸器科部長）

進行：平井 敦子（中国新聞文化部記者）

第2部 シンポジウム/ディスカッション

「地域発 ACP 普及活動報告」

[シンポジスト]

白川 敏夫（安芸地区医師会副会長）

三上 雅美（東広島地区医師会地域連携室あざれあ）

高橋 百合子（あすか住民自治協議会）

進行：小笠原 英敬（広島県医師会常任理事）



主催 東広島地区医師会

後援 東広島市／広島中央地域保健対策協議会／広島県医師会／東広島市歯科医師会／東広島薬剤師会
中国新聞社／KAMON ケーブルテレビ／FM 東広島 89.7

医療介護総合確保推進法に基づく広島県計画にて開催

思いを伝える ACP アドバンス・ケア・プランニングのすすめ

チームワークで支えたい



広島県緩和ケア支援センター長
本家好文さん(65)

朝刊くらし面で24日まで5か月間、22回にわたって連載した「思いを伝える～アドバンス・ケア・プランニング(ACP)のすすめ」。もしものときのため、これから受けたい医療やケアを周囲にどう伝えたいのかをテーマに、医師2人が執筆した。広島県地域保健対策協議会でACP普及に取り組む広島赤十字・原爆病院呼吸器科部長の有田健一さん(65)と、広島県緩和ケア支援センター長の本家好文さん(65)。連載を振り返り、今後の課題について対談してもらった。(文・平井敦子、写真・浜岡学)



広島赤十字・原爆病院呼吸器科部長
有田健一さん(65)

連載を終えて 対談

最後は人のお世話になる

本家 ただ、先のことを考えない人も少なくない。誰しも必ず老いはやってくるし、死が訪れるのに、元気をうちあげんとはいないですね。

有田 そうそう。年を取るといふことがどういふことか。意外、私には分かかっていない。体力が衰え、最後は助けが必要というところ。多くの人が人のお

世話になるということ。お世話になる限りは、元気がなくなり自分の思い、希望を話っておきまじょうと。自分の意思を伝えられなくなってきたときのためにね。

本家 ソーシャルワーカーの人たちは、患者さんと非常に距離が近い。話をうまく引き出し、たくさんのお話を聞いている。多職種で連携することが大切ですね。

有田 国は財政が厳しいし、高齢者は多くなると、これからは必要なだけしか入院できない時代になる。ちょっと入院して、ほとんど家にいることになる。そこで、どうするか。医療者が自分でできる範囲で、患者さん

有田 医療は進歩して、昔はなかつた灌漑技術が、いまはたくさんある。その中から一つ選ぶのは大変です。私は、その人の行く道を決めるときは、患者さんに思いを話してもらって、医療者や家族を含めてみんなで考えてみるのがいいんじゃないかと思う。そんな人問味のある医療を目指したいですね。

本家 しかし、医師には話したいという人も少なくないんでしょうね。医師は忙しい。それを踏まえて、患者との間にすごく距離がある。医師は説明をするのが目的、患者の話は聞くのが目的というのが現状かもしれないけれど、逆でもないかもしれない。経験から言えば、患者さんへの話を聞けば聞くほど、信頼関係も生まれるような気がします。

有田 患者さんが自分の思いを語る中には、その人の人生をつかみ取れるような発言があると思うんです。診療時間が短くても、患者さんの口癖がにじむ言葉には意識して、それを何回かの診療でつなげていくと、その人の全体像が見えてくることもある。ただ、その人の希望を聞く役割は、医師だけで担わなくては、医師だけでは頼りないですね。

本家 同じです。何よりもチームワークが大切なわけですね。

有田 家族の力も借りたいいね。「先生、希望を言え」と言われてもいっつうたらないか。タイミングが分かんないと言われた年配の患者さんがありました。自分の父親や母親に「お父さん、年取ってさあから、今後どういう医療を受けたいの？」って聞いてもらったら、親世代は話しやすいんじゃないかしら。

有田 医療は進歩して、昔はなかつた灌漑技術が、いまはたくさんある。その中から一つ選ぶのは大変です。私は、その人の行く道を決めるときは、患者さんに思いを話してもらって、医療者や家族を含めてみんなで考えてみるのがいいんじゃないかと思う。そんな人問味のある医療を目指したいですね。

中国新聞社提供 (平成26年12月31日掲載)

思いを伝える～ACPのすすめ～

中国新聞朝刊くらし面に、本家氏と有田氏による連載が8月から5か月間計22回にわたり掲載されたことは、皆様の記憶に新しいのではないのでしょうか？

第1部では、～ACPってなあに？～を、長年診療の現場で患者さんやご家族と向き合ってきた本家氏・有田氏の対談を平井氏(中国新聞社)による進行で進めていきます。

第2部では、今年度ACP普及活動を行った安芸地区医師会・東広島地区医師会から活動報告、市民発信で活動をしているあすか住民自治協議会からの報告を小笠原氏(広島県医師会)の進行により進めていきます。皆様も「豊かな人生を生き抜くために」ぜひご参加ください。

お問い合わせ先 : 東広島地区医師会 地域連携室あざれあ 電話(082)493-7360